

..... 編集後記

◆ 9月号に続く特集「日本周辺海域の地質構造マッピング」その2を本号でお届けいたします。本座栄一さんによるオホーツク海から北海道南部、三陸、常磐沖海域に至る地質構造発達史2篇が掲載されております。どの海域も私にとっては懐かしい思い出の地です。白嶺丸によるGH76-2航海は、最初の子供が生まれてわずか3日目の出航でした。慌てて名前を付けた記憶があります。どの海域の調査も調査団長の本座さんとご一緒でした。その白嶺丸が、来年3月をもってその役割を終えることになりました。近い内に海洋地質部を中心に、本ニュース誌上で、「白嶺丸と海洋地質部25年」特集号を組む予定です。

◆ 七山 太さんからいただいたグラビアおよび重野聖之さんほかの柱状試料採取の工夫の原稿は、津波による堆積物を探し、先史・歴史時代に記述のない地震の存在を、地質学の手法を用いて明らかにしようとする試みです。津波堆積物は地震に伴うばかりでなく、海域の火山活動にも伴われます。インドネシアのクラカタウ火山の噴火による津波は、周囲の島々を襲い大きな被害を生じました。日本近海でも海底火山は沢山あります。つい最近、金を含む熱水鉱床の発見で話題となった伊豆諸島南方の明神海丘も、クラカタウ火山にまさるとも劣らない規模の海底カルデラ火山です。七山さんたちの原稿を拝見して、この火山の噴火により生じた津波が、

近くの青ヶ島や八丈島を襲い津波堆積物を生じていれば、噴火の年代がつかめるのではないかと想像しました。

◆ 服部 仁さんによる兵庫県南部地震による被害の記述は、いよいよ最終章を迎え、本号と次号とで完結します。震源域に想定される断層と地表に出現した地震断層との関係が果たして一連のものであったかどうか、そこが服部さんの問題意識の原点だったそうです。その観点からの鋭い記載が続きます。

◆ 国土地理院発行の数値地図をもとに、これまで空中写真や衛星画像で確認できなかったリニアメントや地形の特徴を読み取ることができる。そんな方法が蟹澤聰志さんほかにより示されています。斜度図、開度図がどのように地質や地形を反映しているのか、是非本文をご覧ください。

◆ 10月1日から産学官連携推進センターがようやく一つの部屋にまとまることができました。これまで本館1階の正面玄関近くにあった地質相談所、同じく1階の総務部業務課広報係と併せて、同一の部屋で顔を突きあわせて業務できるようになり、仕事の打合せ等がスムーズに行えるようになりました。新しい部屋は地質調査所8階の、見晴らしのよいところにあります。地質相談、あるいは共同研究のご提案など、多くの皆さまのおいでをお待ちしております。
(湯浅真人)

地質ニュース編集委員会

委員長：湯浅真人

副委員長：石井武政

委員：星住英夫・飯笹幸吉・七山 太・佐々木宗建
佐藤興平・大熊茂雄・石塚 治・木下泰正・
中野 司・遠藤祐二

事務局：総務部業務課広報係（河村幸男・渡辺光次）

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3569

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第542号	1999年	10月号
	定価¥785(本体価格¥748) 千実費		
1999年10月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©1999 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。